

平成26年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2016

甲州市教育委員会

平成26年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2016

甲州市教育委員会

## 序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成 26 年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。26 年度は 6 地点の遺跡について試掘調査等を行っています。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月 25 日

甲州市教育委員会

教育長 保坂 一仁

## 例　言

- 1 本書は、平成 26 年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

## 凡　例

- 1 本書中、各遺跡の調査地点を示した図（4 ページ）は国土地理院発行の 1/50,000 地形図（御岳昇仙峠、丹波、都留）を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示してある。
- 3 挿図は、遺跡ごとに連続する番号を付した。
- 4 遺物観察表中、法量（口径・器高・底径・長さ・幅・高さ・厚さ等）の単位は cm である。

## 目　次

### 序

#### 例言・凡例・目次

第1章　遺跡の所在確認業務について.....	1
第2章　発掘調査等について.....	1
第3章　発掘調査等の概要.....	2
第1節　事業費.....	2
1　事業経費収支予算書.....	2
2　事業経費収支精算書.....	3
第2節　発掘調査等.....	5
1　松本遺跡.....	5
2　橋爪氏屋敷.....	8
3　八桑田西遺跡.....	14
4　ケカチ遺跡.....	26
5　亀久保遺跡.....	33
6　前田遺跡.....	39
抄録・奥付	

## 第1章 遺跡の所在確認業務について

平成26年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁 甲州市教育委員会教育長  
辻 勝弘 教育委員会生涯学習課長  
小野正文 生涯学習課文化財指導監  
飯島 泉 生涯学習課文化財担当リーダー<sup>1</sup>  
入江俊行 生涯学習課文化財担当  
北井靖人 生涯学習課文化財担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、26年度は313件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの283件、不動産鑑定に伴うもの30件であった。

## 第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で工事立会いとし、6件については試掘調査を実施した。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 入江  
発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・栗原礼子・土屋晴子・萩原里江子・正木なつ子

## 第3章 発掘調査等の概要

### 第1節 事業費

#### 1 事業経費収支予算書

収入の部

	金額	備考
国庫補助金	1,170,000 円	2,340 千円の 50%
県費補助金	500,000 円	2,340 千円の 25%以内
甲州市負担金	670,000 円	
計	2,340,000 円	

支出の部

	金額	備考
報償費	0 円	
旅費	0 円	
賃金	1,270,000 円	発掘 130 日 × 7,000 円、整理 60 日 × 6,000 円
需要費	408,000 円	
消耗品費	15,000 円	調査・整理消耗品
印刷製本費	393,500 円	報告書 1,200 円 × 300 冊 × 1.08、その他 DPE、コピー等
役務費	0 円	
委託料	0 円	
使用料及び賃借料	661,500 円	機械借上げ 31,500 円 × 21 日
計	2,340,000 円	

## 2 事業経費收支精算書

## 収入の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
国庫補助金	1,170,000円	2,340千円の50%
	1,170,000円	
県費補助金	500,000円	2,340千円の25%以内
	500,000円	
甲州市負担金	677,415円	
	670,000円	
計	2,347,415円	
	2,340,000円	

## 支出の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
報償費	0円	
	0円	
旅費	0円	
	0円	
賃金	1,526,000円	発掘 86日×7,000円、整理 154日×6,000円
	1,270,000円	
需要費	303,015円	
	408,500円	
消耗品費	30,855円	ポリ袋、三角ホー（大・小）、ツメブラシ、ロープ、ノコギリ、剪定鉄等
	15,000円	
印刷製本費	272,160円	平成25年度市内遺跡発掘調査等事業報告書
	393,500円	
役務費	0円	
	0円	
委託料	0円	
	0円	
使用料及び賃借料	518,400円	重機借上げ 518,400円
	661,500円	
計	2,347,415円	
	2,340,000円	



平成26年度市内遺跡発掘調査地点

## 第2節 発掘調査等

### 1 松本遺跡

(1) 所在地 甲州市勝沼町藤井字三口神 782-1

(2) 調査面積 約 28.7m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 26 年 4 月 16・17 日

(4) 調査原因 工場建設に伴う遺跡の有無確認

(5) 調査結果

当地は、縄文時代の著名な遺跡である駅廻堂遺跡が所在する京戸川扇状地上にあたり、縄文時代の散布地である「松本遺跡」の包蔵地に近接する地点にあたる。

工場建設予定地内に遺跡が存在するか確認するため、対象敷地内に調査区（A ドレンチ）を設定し、試掘調査を行った。

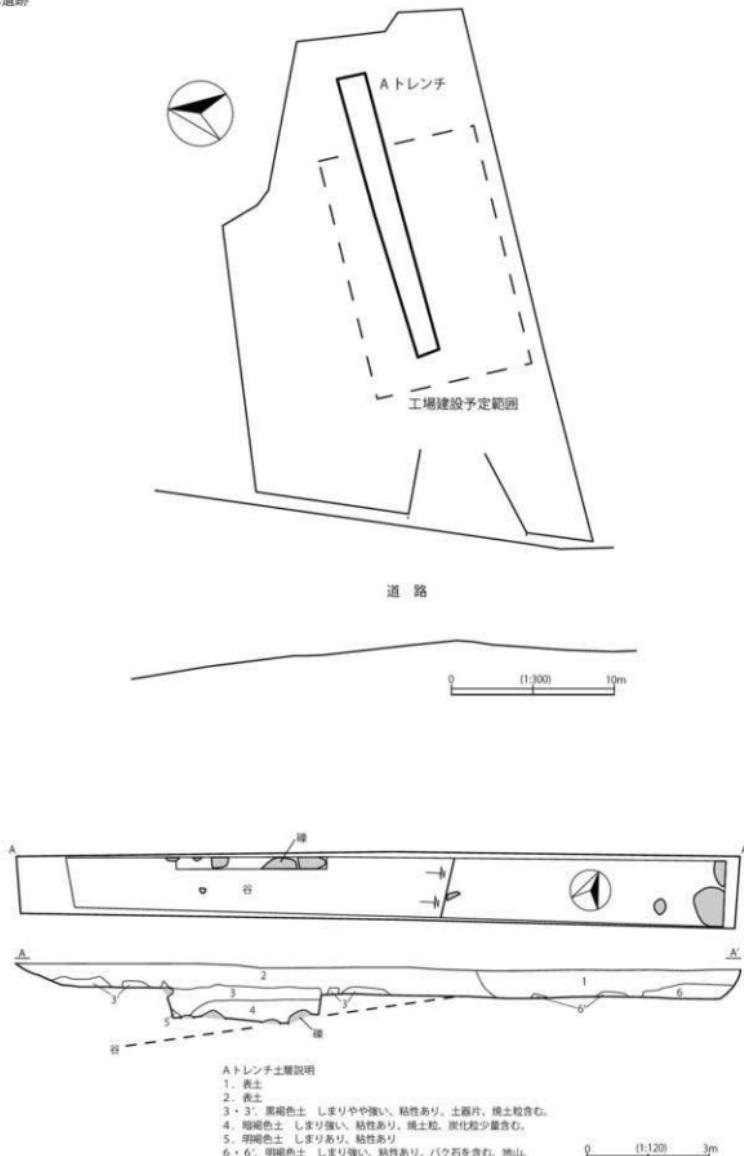
#### A ドレンチ

A ドレンチは東西方向に長さ約 16.9m × 幅約 1.7m で設定した。地表下約 60cm の深さまで掘削したところ、しまりの強い明褐色土層を検出したため、これを地山と判断し、この面で精査を行うこととした。その結果、遺構は検出されなかったが、ドレンチの西半から黒色土（断面図 3 層および 3' 層）の堆積が認められた。黒色土中からは土器片が検出されており、縄文時代中期のものが多い。

黒色土の堆積状況を調べるために、部分的に深掘りを実施したところ、地表下約 1.2m 付近で、礫層（礫の直径 30cm 以上）が検出された。黒色土はこの礫より上に堆積したものとみられ、谷状の落ち込みがこの地点に存在することが分かった。

出土遺物は、縄文時代中期の土器片を主体とし、土師器片もみられるが、小片であり接合できる資料はない。2 点を図示した。1・2 は縄文土器で、いずれも縄文中期中葉。

また、これらは谷の覆土である黒色土中からの検出であり、周辺遺跡からの流れ込みと推定されるため、当地内に遺跡は存在しないと考えられる。



第1図 調査区位置図・A トレンチ平断面図



遺物観察表

番号	始点	種別	長さ	口径	壁高	底径	外表面質	内面質	色調	胎土	保存率(%)	注記	備考
1	AHレシテ	網文	深鉢	-	(4.6)	-	沈線文、斜突文	ナデ	(外)に赤い赤 SYR5/4、 (内)にSLV1 SYR5/4	黒母、白・黒 色粒子	破片	松AHレ	
2	ATレシテ	網文	深鉢	-	(4.6)	-	沈線文、落線	ナデ	(外)黒 SYR2/1、(内) に赤い赤 SYR5/4	黒母、白・赤 色粒子	破片	松AHレ	

第2図 出土遺物



Aトレーニング査査状況（東から）



Aトレーニング断面（南から）



1



2

出土遺物

## 2 橋爪氏屋敷

(1) 所在地 甲州市塙山上於曾 1435-1,10,11,1437-1,2,3,4,5

(2) 調査面積 約 148.6m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 26 年 4 月 24・25 日

(4) 調査原因 宅地造成

(5) 調査結果

当地は、塙山市街地を南流する重川と塙川に挟まれた微高地上にあたり、埋蔵文化財包蔵地「橋爪氏屋敷」の範囲内にあたる。

当地内における遺跡の有無および範囲を確認するため、地内に試掘坑（トレンチ）を 6 塵所設定し、調査を行った。

いずれのトレンチも地表下約 60cm で、しまりのある明褐色砂質土層を検出することができ、この層の上面で精査を行なったところ、各トレンチ内から遺構・遺物を検出した。詳細は以下の通りである。

A トレンチ 規模：16.6m × 1.5m 検出遺構：竪穴住居跡 3、小穴 10

検出遺物：縄文土器、土師器、須恵器、陶器

B トレンチ 規模：16.5m × 1.5m 検出遺構：竪穴住居跡 1、溝跡 1、不明遺構 5

検出遺物：土師器、磁器

C トレンチ 規模：17.5m × 1.5m 検出遺構：竪穴住居跡 1、不明遺構 4

検出遺物：土師器、古錢、陶器、磁器

D トレンチ 規模：15.4m × 1.5m 検出遺構：竪穴住居跡 2、小穴 3

検出遺物：土師器、陶磁器、鉄製品

E トレンチ 規模：17.4m × 1.5m 検出遺構：竪穴住居跡 2、小穴 2

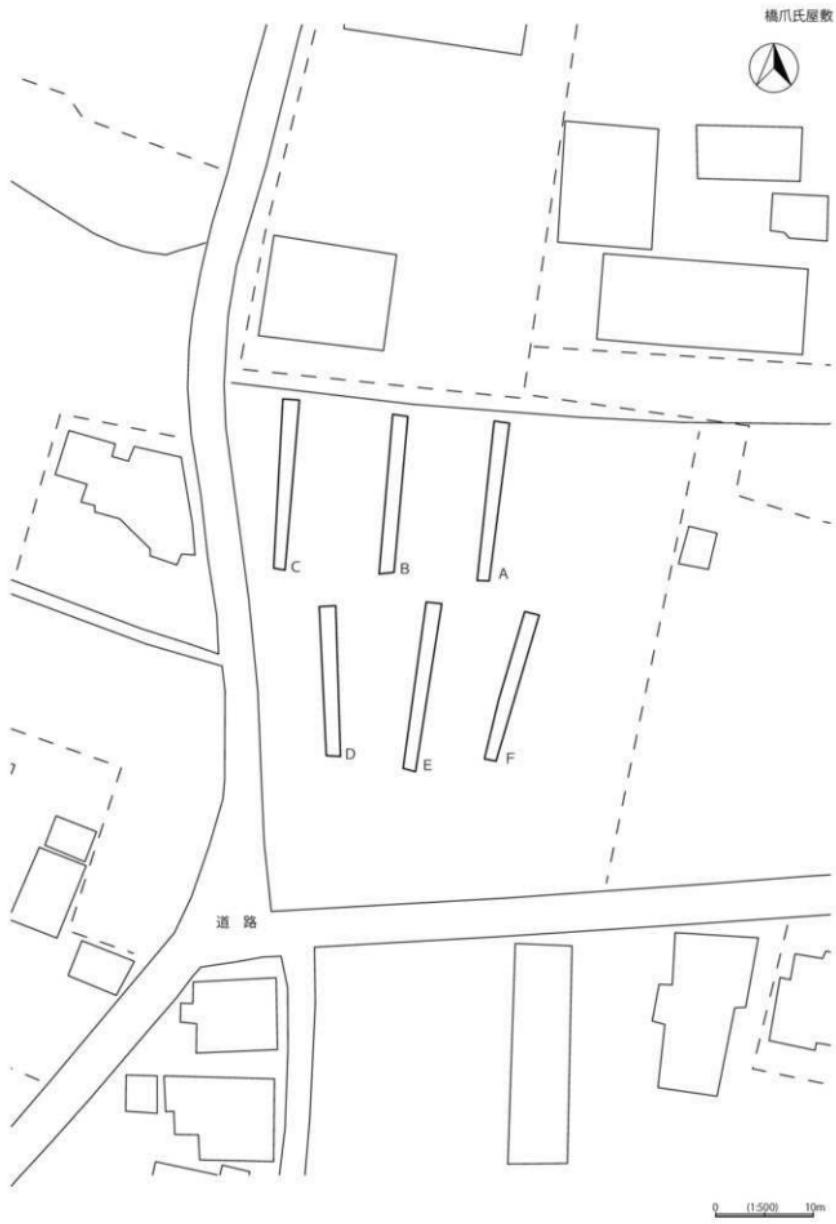
検出遺物：土師器

F トレンチ 規模：15.7m × 1.5m 検出遺構：竪穴住居跡 3、小穴 2

検出遺物：縄文土器、土師器、須恵器

なお、出土遺物の主体は土師器であり、住居跡も方形とみられることから、平安時代の集落跡が中心と考えられる。遺物は 2 点を図示した。1 は土師器で甕の口縁部、内外共にハケ目。2 は須恵器甕胴部片で外面タタキ、内面ヘラナデ調整。

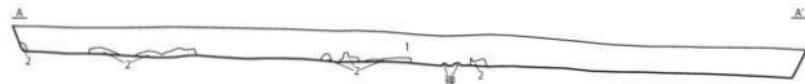
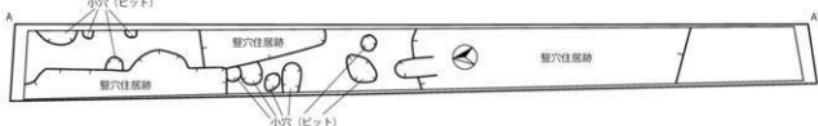
以上のような調査成果をもとに事業者と協議し、宅地造成部分のうち進入路部分については、本発掘調査を実施することとし、宅地部分については新築の都度、届出を提出してもらうこととして、記録保存できる措置を執った。



第1図 調査区位置図

梯爪氏屋敷

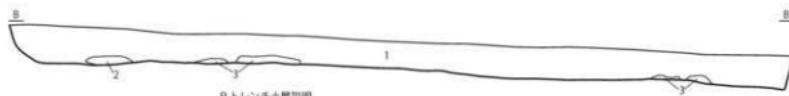
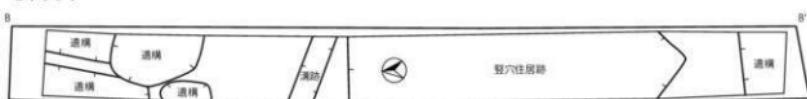
A トレンチ



A トレンチ土層説明

1. 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。表土。
2. 明褐色土 しまりやや強い、粘性ややあり。地山。

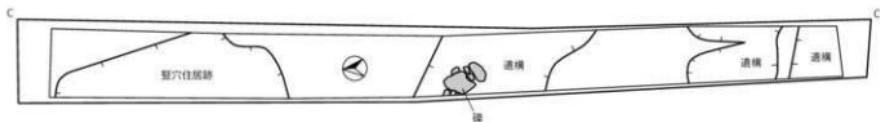
B トレンチ



B トレンチ土層説明

1. 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。表土。
2. 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。炭化粒含む。
3. 明褐色土 しまりやや強い、粘性ややあり。地山。

C トレンチ



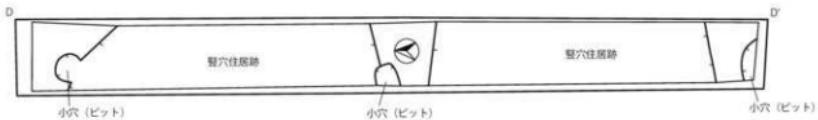
C トレンチ土層説明

1. 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。表土。
2. 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。地山となる4層土ブロックを少量含む。
3. 褐色土 しまりあり、粘性ややあり、4層土ブロックを含む。拳大の不堅円錐を含む。
4. 明褐色土 しまりやや強い、粘性ややあり。地山。

0 (1:100) 2m

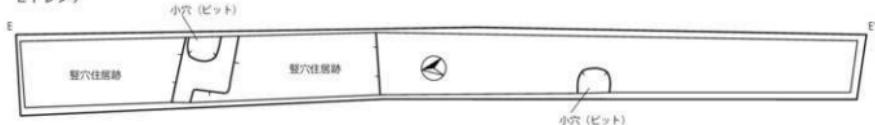
第2図 A・B・C トレンチ平面図

## D トレンチ



D トレンチ土層説明  
1. 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。表土。  
2. 明褐色土 しまりやや強い、粘性ややあり。地山。

## E トレンチ



E トレンチ土層説明  
1. 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。表土。  
2. 明褐色土 しまりやや強い、粘性ややあり。地山。

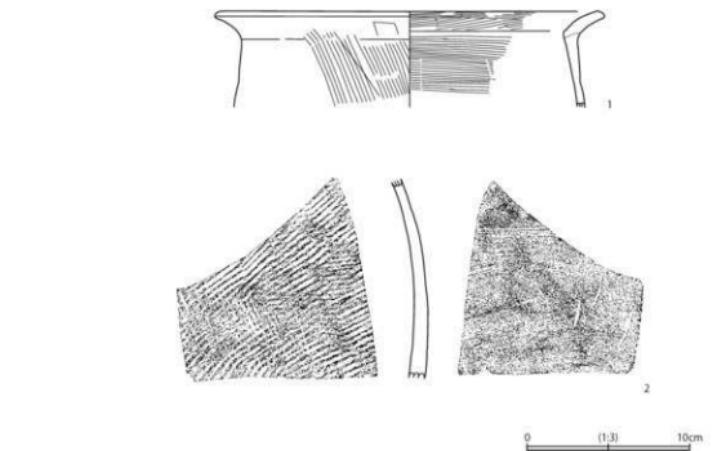
## F トレンチ



F トレンチ土層説明  
1. 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。表土。  
2. 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。後土を少量含む。  
3. 明褐色土 しまりやや強い、粘性ややあり。地山。

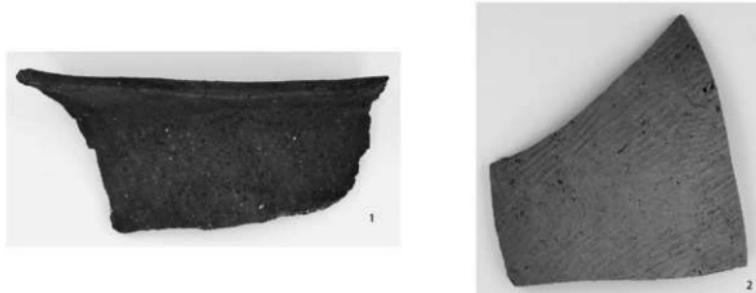
0 (1:100) 2m

第3図 D・E・F トレンチ平断面図



番号	地点	種別	基盤	口径	縁高	底径	外面調整	内面調整	色調	胎土	残存率(%)	主記	備考
1	Fトレシ	土器器	變	23.4	(5.9)	-	縦ハケ	横ハケ	(内)明赤褐 2-3.5-4赤褐色 5-6.5-7赤褐色	黒母、白・黒・ 赤色粒子	口縁部破片	ハシFトレ8	
2	Fトレシ	須恵器	圓	-	-	-	タタキ	ヘラナナ	灰白SY7/1	白・黒色粒子	破片	ハシFトレ5	

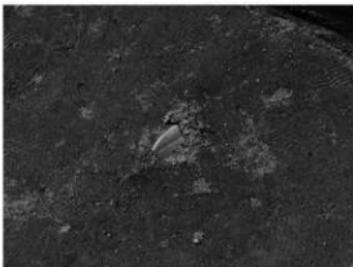
第4図 出土遺物



出土遺物



A トレンチ精査状況（南から）



A トレンチ遺物出土状況



B トレンチ精査状況（北から）



C トレンチ精査状況（北から）



D トレンチ精査状況（北から）



E トレンチ精査状況（南西から）



F トレンチ精査状況（北から）

### 3 八桑田西遺跡

(1) 所在地 甲州市塙山千野字八桑田 3741-3-4

(2) 調査面積 試掘 38.5m<sup>2</sup> 本調査 60.1m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 26 年 10 月 24 ~ 11 月 17 日

(4) 調査原因 住宅建設に伴う遺跡の記録保存のため

(5) 調査結果

当地は、塙山市街地を南流する塙川左岸の微高地上にあたり、埋蔵文化財包蔵地「八桑田西遺跡」の範囲内にあたる。

住宅建設が予定される敷地内に遺跡が存在するか確認するため、2 本の試掘坑（トレンチ）を設定し調査を行ったところ、A トレンチ南側で平安時代の所産と考えられる住居跡を発見した。敷地南半に地盤改良を実施する計画であったため、住居跡が及ぶと想定される範囲に調査区を拡張し、部分的に記録保存目的とした本発掘調査を実施することとなった。

調査により検出された遺構は竪穴住居 3 軒、土坑 1 基、小穴 2 基である。

#### 竪穴住居跡

竪穴住居は 3 軒重複した状態で確認されており、2 号住居がもっとも新しく、1・3 号住居はそれより古い。1 号住居は約 3.7 × 3.3m の規模で、北側の一部を搅乱により破壊されており、南側半分を 2 号住に切られるが、下層及び床面は残存していた。東辺南寄りにカマドが付く構造の住居で、主軸は N-19°-E を向いている。

2 号住居は約 5.5 × 5.0m の規模で、1 号住居と 3 号住居を破壊して構築される。南側の一部は調査区外に延び、また 1 号土坑により切られる。北東隅にカマドが付く構造で、主軸はほとんど真北を向いている。中央に位置する住居内ピット（小穴）内およびその周辺から焼土が多く見られ、炉跡と考えられる。鉄鏃や刀子などの鉄製品も出土しており、鍛冶に関連する遺構の可能性もある。

3 号住居は調査区の南西隅から検出された。西側の大半はすでに擁壁工事の際に破壊を受けたようである。東側の一部を 2 号住に切られる。1 号住居と同様に東辺南寄りにカマドを持つ構造で、時期的にも 1 号住居に近い年代の住居と思われる。主軸方向は不明。

#### 土坑

当初、「4 号住居」として調査を行ったが、床面の凹凸が多く、住居の床面とは見なしがたいことから、土坑とした。一部、黄褐色粘質土ブロックが地山面より持ち上がりっていたりすることから、風倒木痕などの可能性がある。規模・形態は調査区外に延びるため不明であり、擁壁が近接していることからすでに削平を受けているものとみられる。

#### 出土遺物

出土した遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（甕、壺、羽釜）、陶器（常滑甕）、灰釉陶器、須恵器、石器（石鑿、玉斧）、鉄製品（鉄鏃、刀子）等であり、土師器が主体となっている。23 点を図示した（第 5・6 図）。

1 竪は 4 点を掲載した（第 5 図 1 ~ 4）。第 5 図 1 ~ 3 は土師器壺でナデ、胴部下半はヘラケズリを施す。底面は回転糸切り後ヘラケズリを施すもの（2）と、回転糸切りのみの 2 種がある。1、3 は口縁端部が

玉縁となっている。第5図4は土師器羽釜の一部で外面縦ハケ、内面横ハケを施す。以上のような遺物の様相から1堅の年代は10世紀前半と考えられる。

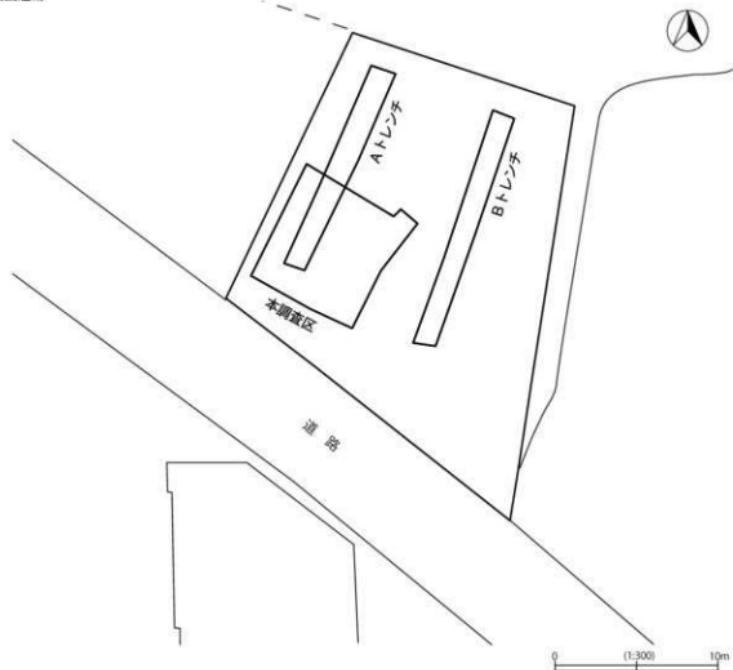
2堅は14点（第5図5～11、第6図17～23）を掲載した。第5図5～10はロクロ整形の土師器皿で、7を除いて床面直上から出土している。10は見込部分にヘラナデの痕跡と考えられるが、渦巻き状に沈線が巡っている。11は土師器羽釜。第6図17～22は鉄製品で、17は鉄鎌、18は刀子、19は鉄斧、20は折り曲げる加工が施しており、鉄斧と考えられるが残存状態が悪く不明である。21・22は鉄釘。第6図23は蛇紋岩製の玉斧で縄文時代の遺物である。2堅の年代は土師器皿や1堅を破壊して構築されていることから11世紀前半と考えられる。

3堅は4点（第5図12～15）掲載した。第5図12・13は土師器環で、胸部下半にヘラケズリを施す。14・15は置きカマドと考えられ、ツバ部分が剥離している。遺物の様相から10世紀前半と考えられる。

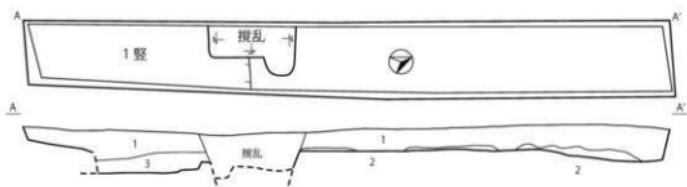
1土は1点（第6図16）掲載した。16は縄文中期後半の深鉢胴部。

#### まとめ

調査の結果、平安時代後半に位置付けられる堅穴住居跡を3軒確認した。1・3号堅穴は10世紀前半、それらを破壊して構築された2号堅穴は11世紀前半の所産と考えられる。堅穴住居跡は当時存在した集落の一部と考えられ、当地の周辺にも遺跡が存在するものと推定される。また、明確な遺構は検出されなかつたが、縄文時代の遺物も相当数検出されており、縄文時代の遺跡も近傍に存在することが窺われる。

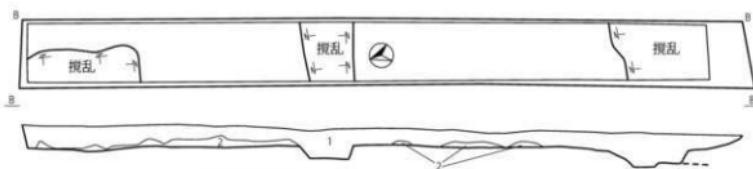


Aトレンチ



Aトレンチ土層説明  
 1. 暗褐色土 表土。しまりややあり、粘性あり。黄褐色粘質土粒少量含む。  
 2. 黄褐色土 地山。しまり強い、粘性強い。  
 3. 暗褐色土 透構層土。しまりやや強い、粘性あり。塊土粒・炭化粒含む。土器片含む。

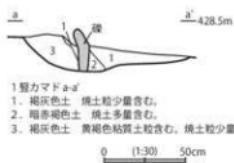
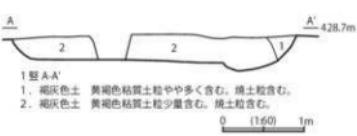
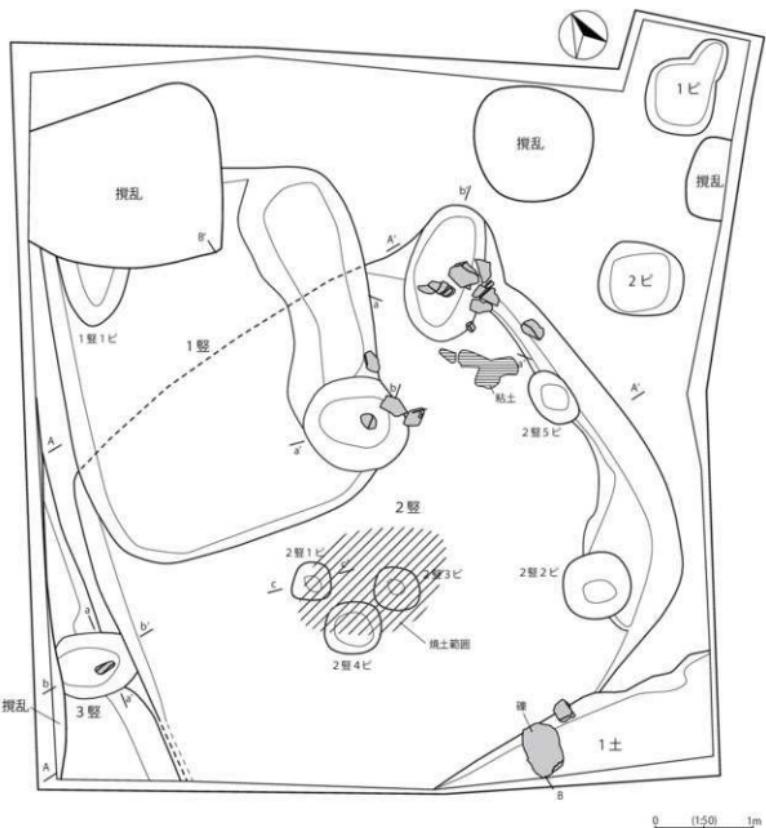
Bトレンチ



Bトレンチ土層説明  
 1. 暗褐色土 表土。しまりややあり、粘性あり。黄褐色粘質土粒少量含む。  
 2. 黄褐色土 地山。しまり強い、粘性強い。

0 (1:100) 2m

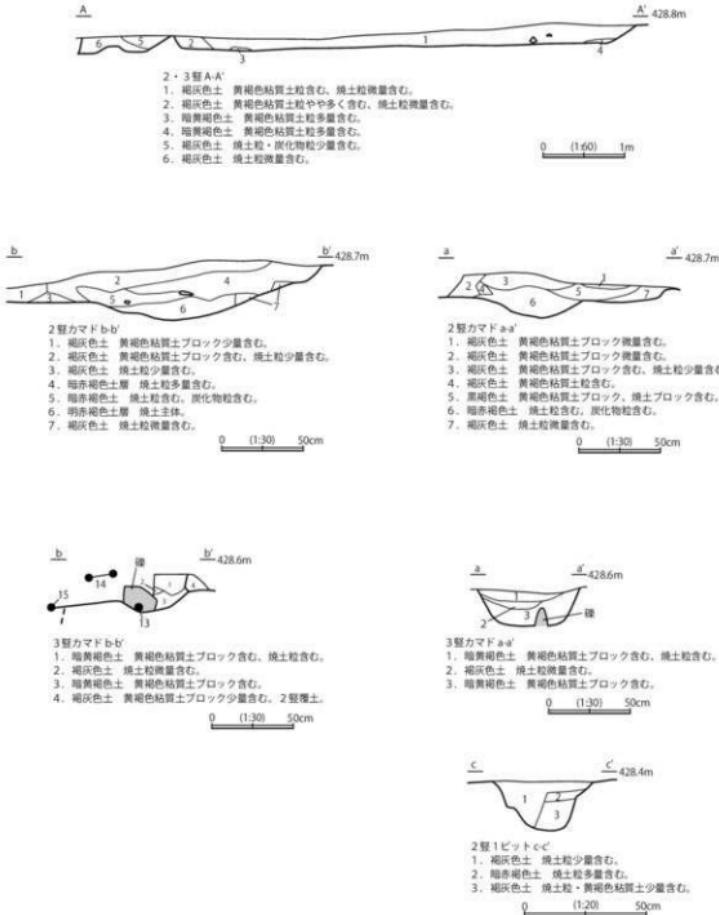
第1図 調査区位置図・A・Bトレンチ平断面図



第2図 遺構平面図・1竪断面図



第3図 遺物出土分布図・1・2 縦断面図



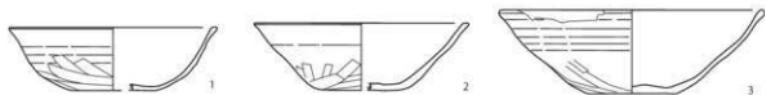
ピット一覧表

ピット番号	法量(cm)			平面形	覆土	備考
	長軸	短軸	深さ			
1	110	80	7	不整梢円形	暗褐色土 黄褐色粘質土微量	
2	85	75	4	円形	暗褐色土 黄褐色粘質土少量	

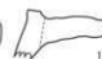
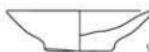
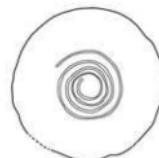
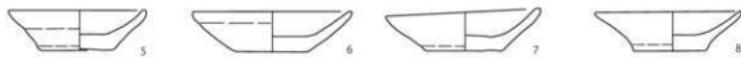
ピット番号	法量(cm)			平面形	覆土	備考
	長軸	短軸	深さ			
1號-1	(61)	-	17	梢円形	暗褐色土	
2號-1	45	42	20	円形	-	断面図あり
2號-2	68	66	43	円形	暗褐色土	
2號-3	46	43	12	円形	暗褐色土	
2號-4	57	53	6	円形	暗褐色土	
2號-5	61	40	18	梢円形	暗褐色土	

第4図 2・3号断面図

1 空



2 空

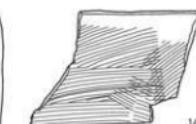


11

3 空



12



14



13

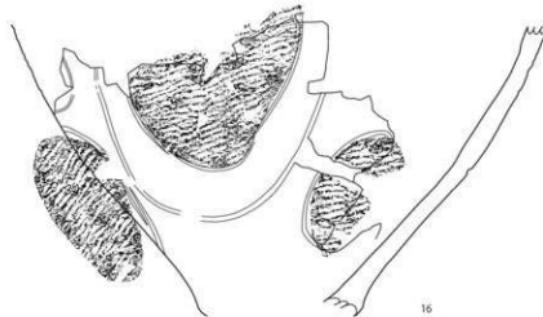


15

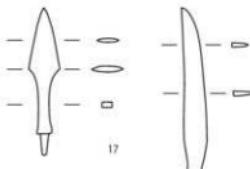


第5図 出土遺物

1土



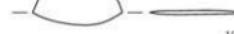
2堅 鉄製品



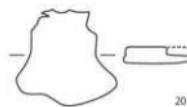
17

18

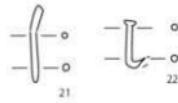
2堅 石製品



19

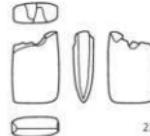


20



21

22



23

0 (1:3) 10cm

第6図 出土遺物

遺物観察表（土器）

番号	地點	種別	口径	脚高	底径	外周調整	内面調整	色調	胎土	残存率(%)	注記	備考
1	1壁	土師器	坪	(12.8)	3.9	(5.2)	ナデ、ヘラ削り	ナデ	褐色SYR6/6 青白・赤色粒子	35	1往277.281	底部にヘラ削り
2	1壁	土師器	坪	(13.2)	4.2	(5.0)	ナデ、ヘラ削り	ナデ	明赤褐色 2.5YR6-8 白・黒・赤色粒子	30	1往155.271	底部回転糸切り後、ヘラ削り、見込部分ヘラナデ？
3	1壁	土師器	坪	(16.0)	5.2	5.4	ナデ、ヘラ削り	ナデ	(外)ニシ-5-1 7.5YR4-4、(内) 黒10YR2-1 白・赤色粒子	50	1往249、2往 14、AH-レサ ブ、1往下層、2 往	内面墨色處理、底部回転 糸切り痕
4	1壁	土師器	羽垂	(24.0)	(8.4)	-	縦ハケ、ナデ	横ハケ、指振 板	褐色 2.5YR6-6、(内) 黒5YR2-1 青白・白色粒子	破片	1往248	
5	2壁	土器	皿	8.5	2.5	4.5	ナデ	ナデ	明赤褐色SYR6/6 白・黒・赤色粒子	80	2往10-22往、 Aトレスラ	内外面にスス付着、底部 回転糸切り痕
6	2壁	土器	皿	(9.8)	2.5	(4.5)	ナデ	ナデ	明赤褐色SYR6/6 白・黒・赤色粒子	50	2往、2往4.30	
7	2壁	土器	皿	9.5	2.6	4.5	ナデ	ナデ	明赤褐色SYR6/6 白・黒・赤色粒子、小 石	ほぼ完形	2往196	底部回転糸切り痕、被熱 痕
8	2壁	土器	皿	9.0	2.5	4.5	ナデ	ナデ	褐色SYR6/6 白・赤色粒子	80	2往195	内外面にスス付着、底部 回転糸切り痕
9	2壁	土器	皿	(9.0)	2.5	4.0	ナデ	ナデ	明赤褐色SYR6/6 白・黒・赤色粒子、小石	40	2往193	外面上にスス付着、底部回 転糸切り痕、全体に摩耗
10	2壁	土器	皿	9.3	2.5	4.5	ナデ	ナデ、見込部分に疊縫	明赤褐色SYR6/6 白・黒・赤色粒子	ほぼ完形	2往231	外面上にスス付着、底部回 転糸切り痕
11	2壁	土師器	羽垂	-	(3.3)	-	縦ハケ	横ハケ	褐色 2.5YR6-6 (外)ニシ-5-1 7.5YR4-4 白・黒・赤色粒子	破片	2往107	内外面スス付着、継裂
12	3壁	土師器	坪	-	(3.5)	5.2	ナデ、ヘラ削り	ナデ	褐色 2.5YR6-6 (内)ニシ-5-1 7.5YR4-4 白・黒・赤色粒子	40	3往、3往カク	
13	3壁	土師器	坪	12.5	2.8	4.5	ナデ、ヘラ削り	ナデ	褐色SYR6/6 白・黒・赤色粒子	90	3往229	底部回転糸切り後、ヘラ削 り
14	3壁	土師器	直きカマド	-	7.0	-	縦ハケ	横ハケ	にじい赤褐色 2.5YR6-4 白・黒・赤色粒子	破片	3往177.181	ツバ部分剥離
15	3壁	土師器	直きカマド	-	7.8	-	縦ハケ	横ハケ	にじい赤褐色 2.5YR6-6、(内) 灰黄褐色 10YR4-2 白色粒子	破片	3往174	ツバ部分剥離、輪摺痕あり
16	1土	土器	深鉢	-	(18.0)	-	沈線、縦文LR	ナデ	褐色 2.5YR6-6、(内) 灰黄褐色 10YR4-2 白・黒・赤色粒子	破片	1土 217.218.224	外表面張あり

遺物観察表（石器・金属器）

番号	地點	種別	器種	長さ	幅	高さ(厚さ)	材質	色調	残存率(%)	注記	備考
17	2壁	鉄製品	鉄鎌	(9.1)	1.9	0.35	鉄	褐色10YR4/4	ほぼ完形	2往43	全面鏡付蓋
18	2壁	鉄製品	刀子	14.3	1.4	0.25	鉄	褐色10YR4/4	ほぼ完形	2往205	全面鏡付蓋
19	2壁	鉄製品	鉄斧	(5.5)	5.6	0.5	鉄	褐色7.5YR4/6	破片	2往102	全面鏡付蓋
20	2壁	鉄製品	不明	(5.9)	6.2	1.0	鉄	暗褐色7.5YR3/3	破片	2往65	全面鏡付蓋、折り曲げられている
21	2壁	鉄製品	釘	4.8	0.4	0.4	鉄	にじい青褐色 10YR5-3	破片	2往一括	全面鏡付蓋
22	2壁	鉄製品	釘	3.0	0.4	0.4	鉄	褐色10YR4/4	破片	2往一括	全面鏡付蓋
23	2壁	石製品	玉斧	(4.4)	2.9	1.2	蛇紋岩	綠灰7.5Y5/1	70	2往1	表裏両面から孔を穿っているが、い ずれも貫通しない。未製品か



A トレンチ精査状況（南から）



B トレンチ精査状況（南から）



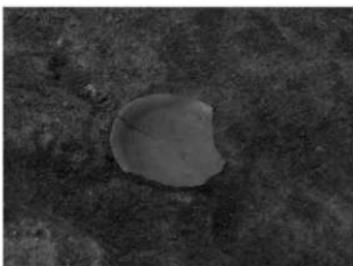
本調査風景（東から）



鉄鎌（17）出土状況



玉斧（23）出土状況



土師器片出土状況



深鉢（16）出土状況



刀子（18）出土状況

八桑田西遺跡



2 竪カマド土層断面（南から）



1・2 竪完掘状況（南から）



1・2 竪完掘状況（東から）



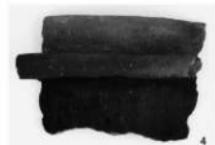
1 竪カマド遺物出土状況（西から）



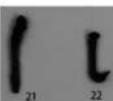
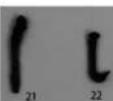
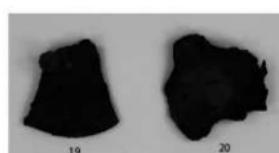
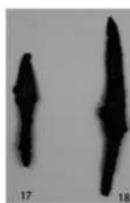
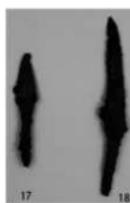
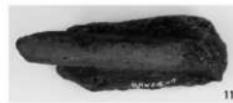
2 竪カマド完掘状況（南から）



3 竪カマド完掘状況（西から）



1堅 1~4  
2堅 5~11、17~23  
3堅 12~15  
1土 16



#### 4 ケカチ遺跡

(1) 所在地 甲州市塙山下於曾 825.835.836.837

(2) 調査面積 約 180m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 26 年 12 月 10 ~ 12 月 15 日

(4) 調査原因 市道整備

(5) 調査結果

当地は、塙川左岸の微高地上に位置し、埋蔵文化財包蔵地であるケカチ遺跡（古墳・平安時代）の範囲内となっている。当地内に市道建設の計画があり、道路予定部分について試掘調査を実施することとなった。市道を整備する予定敷地内に 5 本の試掘坑（トレンチ）を設定し調査を行った。

A トレンチは約 14.6m × 2.1 m で設定し、地表から約 40cm で粘性の強い黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行った。その結果、溝状遺構 3、土坑 3 を検出した。遺物は土師器の破片（平安）が出土している。

B トレンチは約 19.1m × 2.0 m で設定し、地表から約 70cm で黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行った。ローム層はトレンチの中央から西側部分にかけては検出されておらず、谷状に落ち込む地形となっていることが推定された。トレンチ中央部分に大規模な搅乱があるほか、遺構は検出されなかった。遺物は土師器小片（平安？）が微量出土している。

C トレンチは約 23.3m × 1.8 m で設定し、地表から約 50~60cm で黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行った。その結果、重複が多く正確な遺構数は不詳であるが、竪穴住居 1、溝状遺構 2、土坑 9 を検出した。遺物は土師器（平安）が出土しており、竪穴住居とみられる遺構からはミガキ調整のある壺破片（第 4 図 6）が出土している。

D トレンチは約 26.8m × 2.0 m で設定し、地表から約 50~60cm で黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行った。その結果、重複が多く正確な遺構数は不詳であるが、溝状遺構 10、土坑 9 を検出した。遺物は土師器の破片（平安）が出土している。

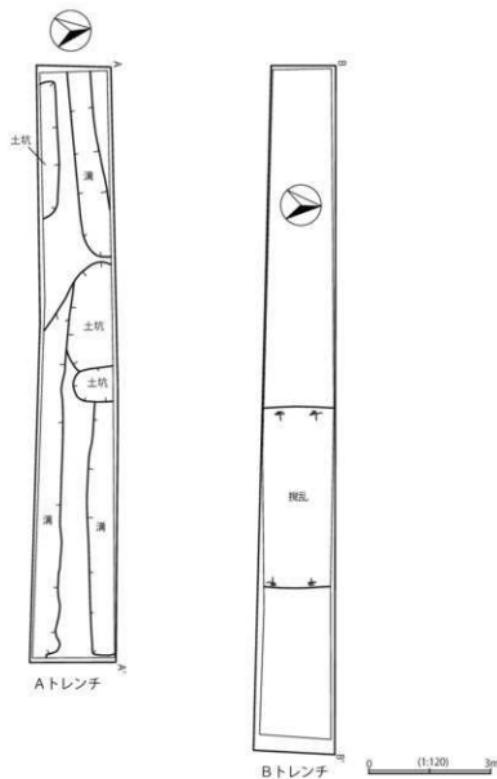
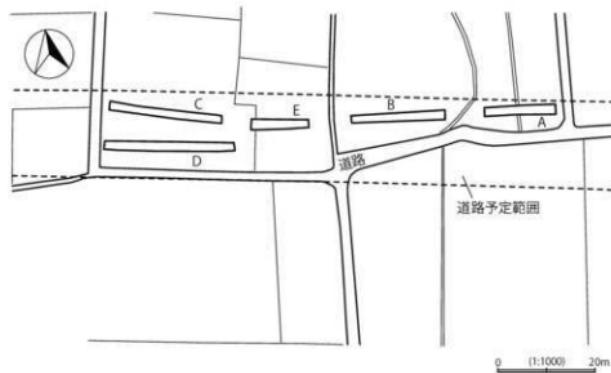
E トレンチは約 11.9m × 2.0 m で設定し、地表から約 30cm で黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行った。その結果、竪穴住居 1、溝状遺構 1 を検出した。遺物は土師器の破片（平安）が出土しており、坏、甕、鉢などがみられる。

調査の結果、A・C・D・E トレンチから遺構・遺物が検出されており、当地内に遺跡が存在することがわかった。B トレンチからは遺構が検出されておらず、地形的に他のトレンチと比較して谷状の低地に位置していることから、B トレンチの地点は流路などの河川跡であったことが考えられる。

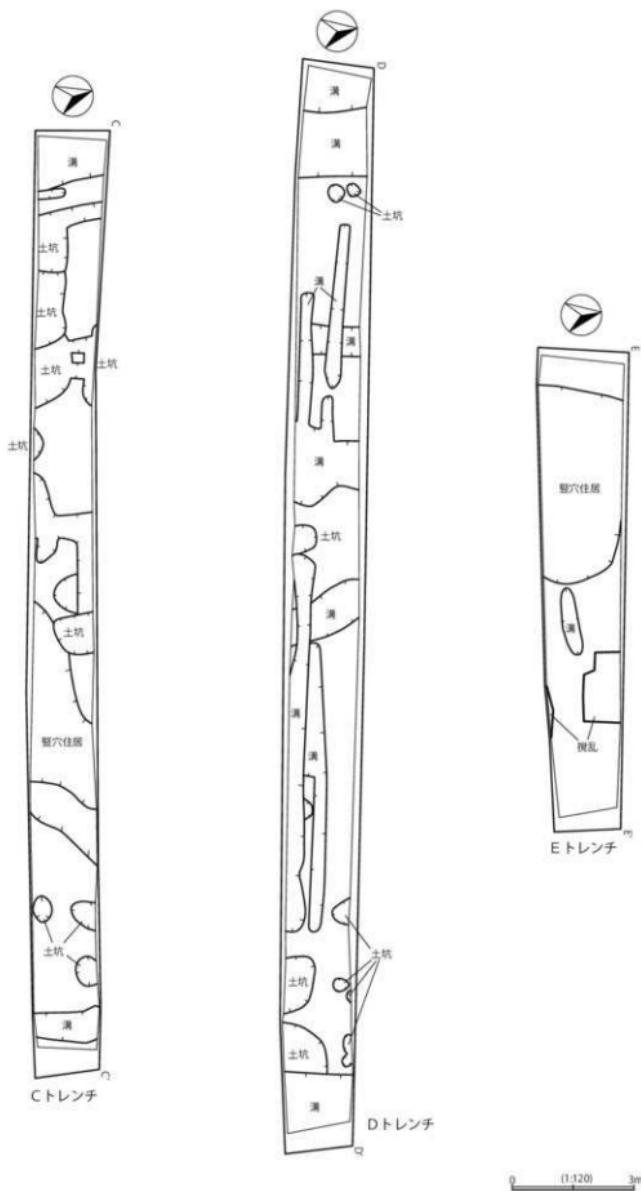
遺物は平安時代の土師器が主体で、6 点を図示した。第 4 図 1 ~ 4 は土師器壺、3 は扁平な高台が付く。小片ではあるが口縁が外反し、暗文がみられないことから 10 世紀以降の所産と考えられる。5 は高台状の脚が付く鉢で、内面は横ハケを見込から口縁まで隙間なく施している。類例が少ないが、笛吹市大原遺跡 E 60 号住居出土の事例と似ており、11 世紀後半としておく。6 は土師器壺の脇部片で古墳前期。

以上のような調査成果を踏まえ、道路工事を計画する甲州市建設課と協議した結果、道路建設部分に対し

て記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。



第1図 調査区位置図 A・Bトレンチ平面図



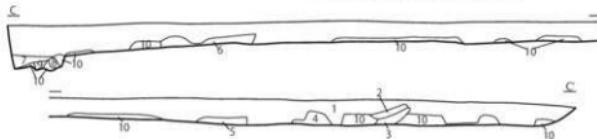
第2図 C・D・Eトレンチ平面図



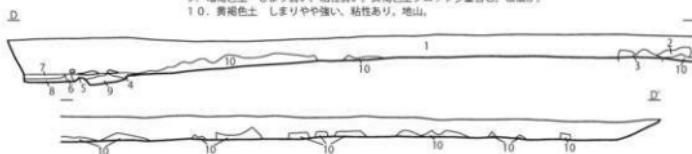
1. 明黄褐色土 しまりややあり、粘性あり。黄褐色土層ブロック多量含む。
2. 明黄褐色土 しまりかかり、粘性あり。黄褐色土層ブロック少量含む。
3. 明黄褐色土 しまりかかり、粘性あり。黄褐色土層ブロック含む。
4. 明黄褐色土 しまりかかり、粘性あり。黄褐色土層ブロック少量含む。
5. 黄褐色土 しまりやや弱い、粘性あり。
6. 黄褐色土 しまりやや弱い、粘性あり。
7. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。通横層土。
8. 黄褐色土 しまりやや強い、粘性あり。地山。



1. 明黄褐色土 しまりあり。粘性あり。礫を含む。
2. 明黄褐色土 しまりあり。粘性あり。
3. 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。
4. 黄褐色土 しまり強い。粘性強い。地山。



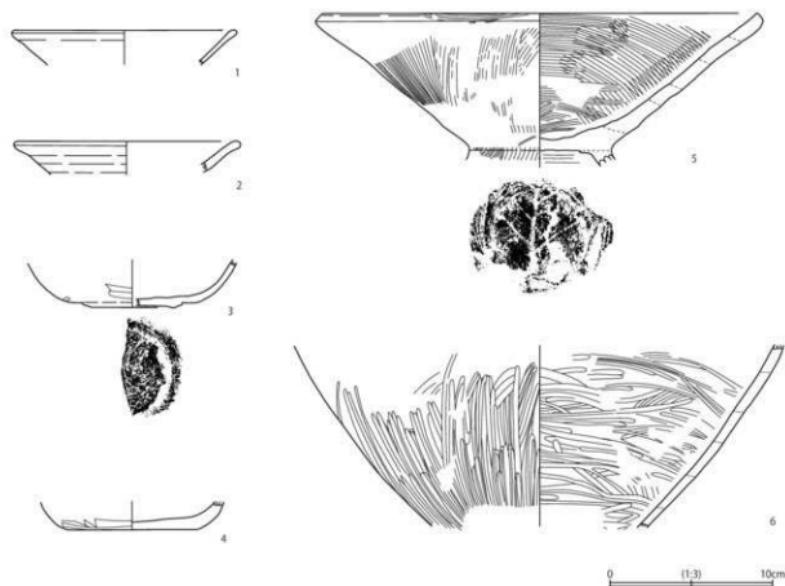
1. 明黄褐色土 しまりあり。粘性あり。表土。
2. 明黄褐色土 しまり弱い。粘性ややあり。
3. 明黄褐色土 しまりあり。粘性やや。
4. 明黄褐色土 しまりやや強い。粘性あり。黄褐色土層ブロック多量含む。
5. 黑褐色土 しまりややあり。粘性あり。通横層土。
6. 明黄褐色土 しまり弱い。粘性ややあり。暗灰褐色土と明黄褐色土が斑文状に混在する。
7. 明黄褐色土 しまりあり。粘性やや。通横層土。
8. 明黄褐色土 しまり弱い。粘性やや。黄褐色土層ブロック含む。根痕か。
9. 明黄褐色土 しまり弱い。粘性やや。黄褐色土層ブロック少量含む。根痕か。
10. 黄褐色土 しまりやや強い。粘性あり。地山。



1. 暗灰褐色土 しまりややあり。粘性あり。
2. 明黄褐色土 しまりややあり。粘性あり。表土・化成土少量含む。
3. 明黄褐色土 しまりあり。粘性あり。炭化物・黄褐色粘質土層ブロック少量含む。
4. 明黄褐色土 しまりややあり。粘性あり。
5. 明黄褐色土 しまりややあり。粘性あり。黄褐色粘質土層ブロック含む。
6. 明黄褐色土 しまりあり。粘性あり。黄褐色粘質土層ブロック少量含むG。
7. 明黄褐色土 しまりあり。粘性あり。通横層土。
8. 明黄褐色土 しまりややや強い。粘性あり。黄褐色粘質土層ブロック少量含む。
9. 黄褐色粘質土 しまりややや強い。粘性あり。地山。
10. 黄褐色粘質土 しまりやや強い。粘性あり。地山。

0 (1:100) 2m

第3図 A～Eトレンチ断面図



番号	地点	種別	施様	口径	縦高	底径	外面調査	内面調査	色調	胎土	残存率(%)	注記	備考
1	Eトレンサブトレ	土師器	坪	(13.6)	(2.1)	-	ナデ	ナデ	にじい赤褐色SYR4/4	磁片	ETレサブ		
2	Eトレンサブトレ	土師器	坪	(13.4)	(1.9)	-	ナデ	ナデ	明赤褐色SYR5/6	白・黒・赤色粒子	磁片	ETレサブ	
3	Eトレンサブトレ	土師器	坪	-	(2.8)	(8.0)	ナデ、ヘラ削り	ナデ	赤褐色SYR4/6	黒母、白・赤色粒子	磁片	ETレサブ	邊部回転角切り痕
4	Eトレンチ	土師器	坪	-	(1.7)	(8.0)	ナデ、ヘラ削り	ナデ	明赤褐色SYR5/6	黒母	磁片	ETレ	内外面にスス付着
5	Eトレンチ	土師器	鉢	27.0	(9.1)	-	縦ハケ	横ハケ	にじい赤褐色SYR5/4	黒母、白・黒・赤色粒子、石英	40	ETレ	裏部底部は朱苔台状を呈し、木炭痕あり
6	Cトレンチ	土師器	壺	-	(11.2)	-	縦ミガキ	横ミガキ	にじい黄褐色TOYR6/4	黒母、白・黒・赤色粒子	破片	GTレ	5.7.8.14.15

第4図 出土遺物



A トレンチ精査状況（南東から）



B トレンチ精査状況（東から）



C トレンチ精査状況（西から）



C トレンチ精査状況（東から）



D トレンチ精査状況（西から）



D トレンチ精査状況（東から）



E トレンチ精査状況（西から）

ケカチ遺跡



## 5 亀久保遺跡

- (1) 所在地 甲州市勝沼町勝沼字亀久保 977-1,979-1
- (2) 調査面積 22m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 平成 27 年 1 月 13 ~ 14 日
- (4) 調査原因 宅地造成
- (5) 調査結果

当地は、勝沼と小佐手の間を西流する田草川左岸の微高地上にあたる。埋蔵文化財包蔵地の範囲には含まれていないが、縄文時代の散布地である亀久保遺跡に近接しているため、試掘調査を実施することとなった。

宅地造成が予定される敷地内に遺跡が存在するか確認するため、5 本のトレンチ（試掘坑）を設定し調査を行った。

A トレンチは約 3.3m × 1.0 m で設定し、地表から 65cm でしまりのある黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。

B トレンチは約 4.3m × 1.1 m で設定し、地表から 82cm でしまりのある黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。

C トレンチは約 4.3m × 1.7 m で設定し、地表から 80cm でしまりのある黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。

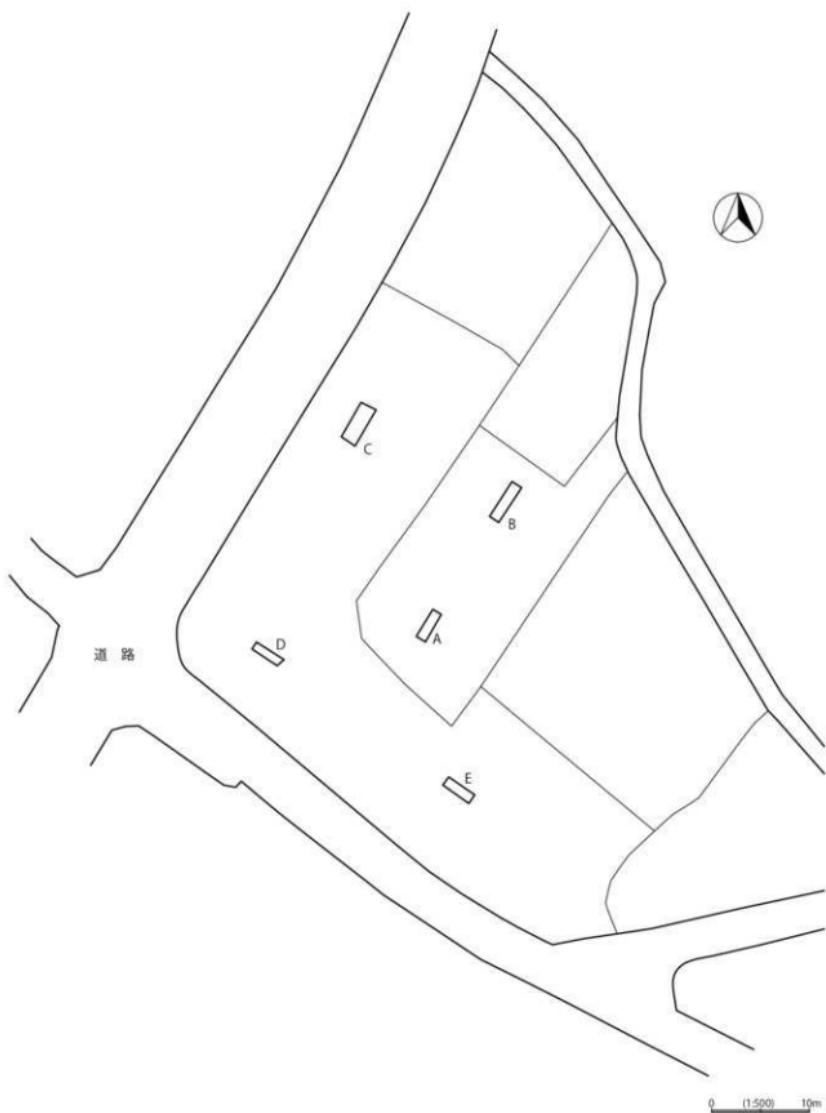
D トレンチは約 3.3m × 0.8 m で設定し、地表から 44cm でしまりのある黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。

E トレンチは約 3.3m × 1.0 m で設定し、地表から 50cm でしまりのある黄褐色土層を検出したため、この面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。

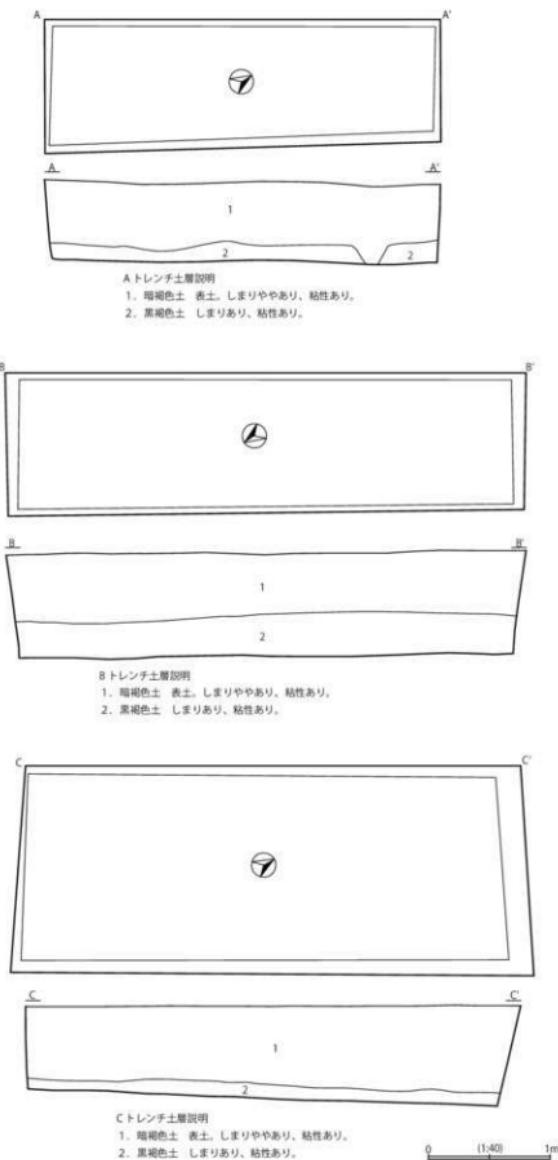
遺物は、土器片数点が検出されているが、小片のため時代などの詳細は不明である。

調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は検出されなかった。遺物は土器片が若干みられたが、遺構に伴うものではなく、周辺遺跡からの混入品と考えられる。

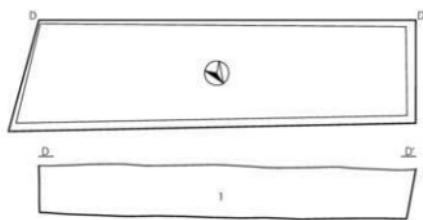
以上のことから、当地内に遺跡は存在しないものと考えられる。



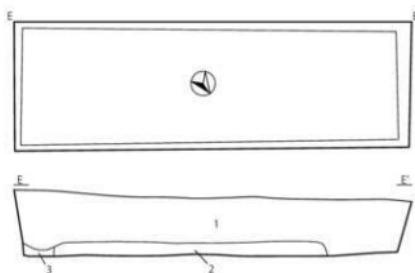
第1図 調査区位置図



第2図 A・B・C トレンチ平断面図



D トレンチ土層説明  
1. 暗褐色土 表土。しまりややあり、粘性あり。



E トレンチ土層説明  
1. 暗褐色土 表土。しまりややあり、粘性あり。  
2. 黒褐色土。しまりあり、粘性あり。  
3. 暗黄褐色土。しまりやや強い、粘性あり。

0 (1:40) 1m

第3図 D・E トレンチ平面面図



A トレンチ精査状況（北から）



A トレンチ土層断面（東から）



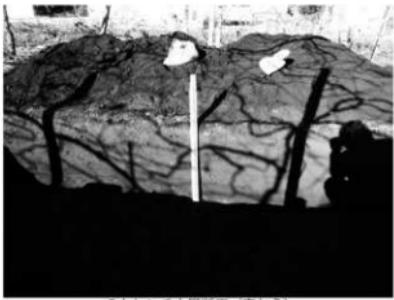
B トレンチ精査状況（南から）



B トレンチ土層断面（西から）



C トレンチ精査状況（南から）



C トレンチ土層断面（東から）



D トレンチ精査状況（東から）



D トレンチ土層断面（北から）



E トレンチ精査状況（西から）



E トレンチ土層断面（北から）

## 6 前田遺跡

(1) 所在地 甲州市塙山牛奥 1571-4.1579-2.1577-3.1588-3.1589-4.1606-12

(2) 調査面積 約 65.5m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 27 年 2 月 4 ~ 6 日

(4) 調査原因 農道整備

(5) 調査結果

当地は、源次郎岳山麓より発する鬱柳川右岸の河岸段丘上にあたり、埋蔵文化財包蔵地である前田遺跡（縄文・散布地）の範囲内となっている。当地内に農道の拡幅および新設のための工事が行われることとなり、新設道路部分について試掘調査を実施することとし、予定敷地内に 6 本の試掘坑（トレンチ）を設定し調査を行った。

A トレンチは約 5.8m × 1.6 m で設定し、地表から約 60cm で人頭大以上の巨礫を含む砂礫層を検出した。表土（1 層）および砂礫層から縄文土器を主体とする土器片が少量検出されたが、遺構は確認されなかった。

B トレンチは約 8.7m × 1.3 m で設定し、地表から約 40cm で A トレンチと同様な、巨礫を含む砂礫層を検出した。表土（1 層）および砂礫層から縄文土器を主体とする土器片が少量検出されたが、遺構は確認されなかった。

C トレンチは約 11.4m × 1.3 m で設定し、地表から約 40cm で A・B トレンチと同様な、巨礫を含む砂礫層を検出した。表土（1 層）および砂礫層から縄文土器を主体とする土器片が少量検出されたが、遺構は確認されなかった。

D トレンチは約 6.6m × 1.3 m で設定し、地表から約 65cm で A～C トレンチと同様な、巨礫を含む砂礫層を検出したが、D トレンチの東半からはこの砂礫層が検出されず、黒褐色土（4 層）が堆積しており、その下には縄文土器を主体とする遺物包含層である暗茶褐色土（5 層）が堆積していた。遺物は 5 層からの検出が顕著であったが、遺構は確認されなかった。

E トレンチは約 7.8m × 1.4 m で設定し掘削を行ったが、A～D トレンチで検出されたような巨礫を含む砂礫層は検出されなかった。土層堆積は、地表下約 60cm でしまりのある黒褐色土（3・4 層）が検出され、その下の暗茶褐色土（5 層）は地表下約 155cm で検出された。この 5 層は D トレンチ東半から検出された土層の延長部分にあたり、D トレンチ 5 層と同様に縄文土器を主体とした遺物包含層と考えられる。5 層より下は暗褐色土（6 層）・黒褐色土（7 層）が堆積し、縄文土器等の土器片が若干検出された。地表下約 235cm まで掘削したが、地山とみられる地層面は検出できず、さらに下まで黒色土が堆積するものと考えられる。また、遺構は確認されなかった。

F トレンチは約 9.6m × 1.1 m で設定し、地表から約 40cm で A～D トレンチと同様な、巨礫を含む砂礫層を検出した。2・4・6 層のような黒褐色土の堆積もみられるが、窪地などに自然堆積したもので、特に遺構とはみなしていない。表土（1 層）および砂礫層から縄文土器を主体とする土器片が少量検出されたが、遺構は確認されなかった。

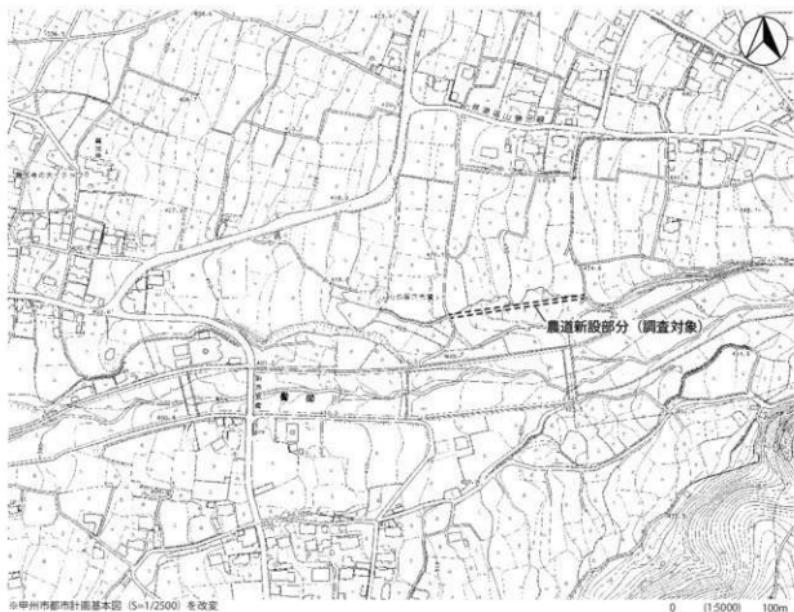
調査の結果、どのトレンチからも遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器片が主体で、コンテナ（60

×40×20cm) 1箱分が検出されている。縄文土器の他に、土製品、石器片、黒曜石・水晶破片、土師器が検出されているがいずれも小片で、個体に復元できるものはない。4点を図示(第5図)した。第5図1・2は縄文土器で深鉢の破片で、1は地文に縄文を施し、その上に横走および○状の条線が施されている。2は竹管工具による平行沈線を施し、粘土紐を波状に貼り付けている。3は磨製石斧、4は土偶頭部片で板状を呈する。喉部から口唇に向けて小孔が貫通している。

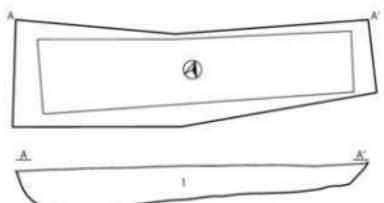
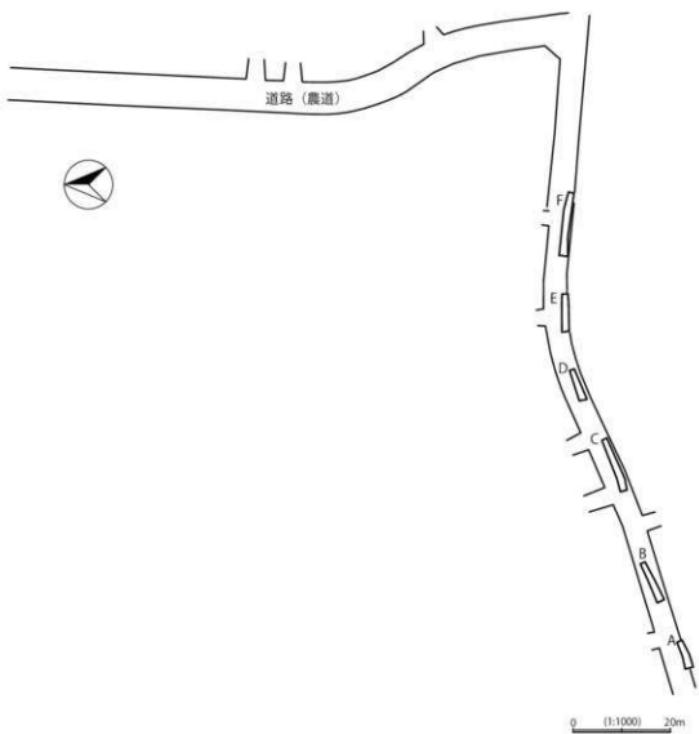
全体的に表土の下は巨礫混じりの砂礫層であり、東側の高台(賀柳川上流側)から流れで堆積したもので、遺物は遺構に伴うものではなく流れ込みと推測される。

ただし、Dトレンチ東半からEトレンチにかけてはこの砂礫層の堆積がみられず、黒色土が深く堆積していることから、この部分には谷状の落ち込みが存在すると考えられる。

この谷部分の下層に縄文時代に堆積した遺物包含層が存在しているが、計画される工事が道路構造令に準拠しない農道であること、また農道の工事予定掘削深度から30cm以上の保護層が確保できることから、本発掘調査の対象とはせず、現状保存とした。



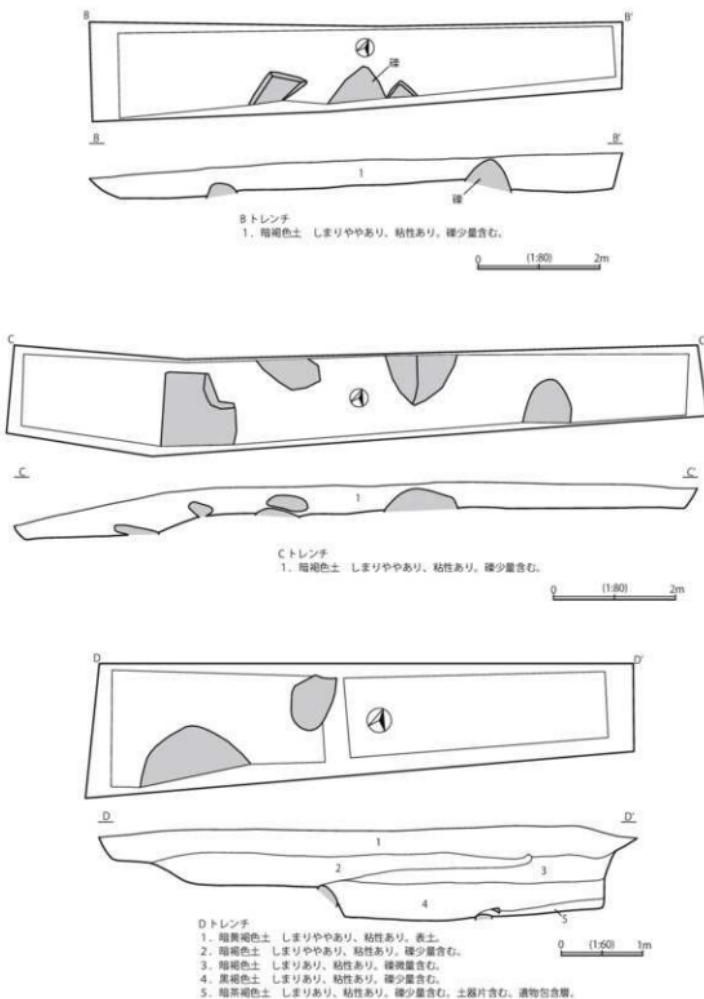
第1図 調査対象位置図



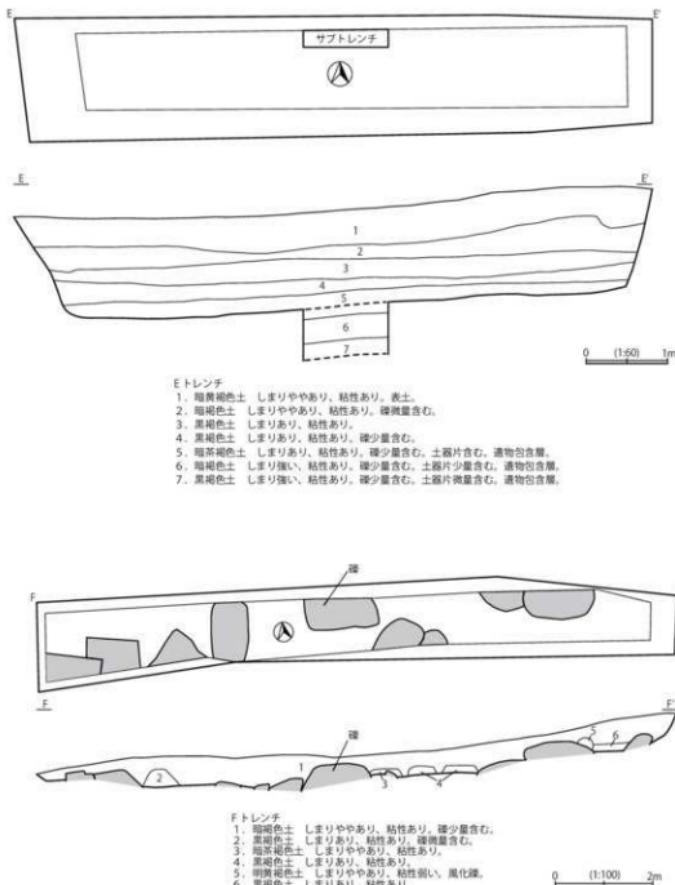
A ドレンチ  
1. 咬褐色土 しまりややあり、粘性あり。礫少量含む。

0 (1.80) 2m

第2図 調査区位置図・A ドレンチ平断面図



第3図 B・C・D トレンチ平面図

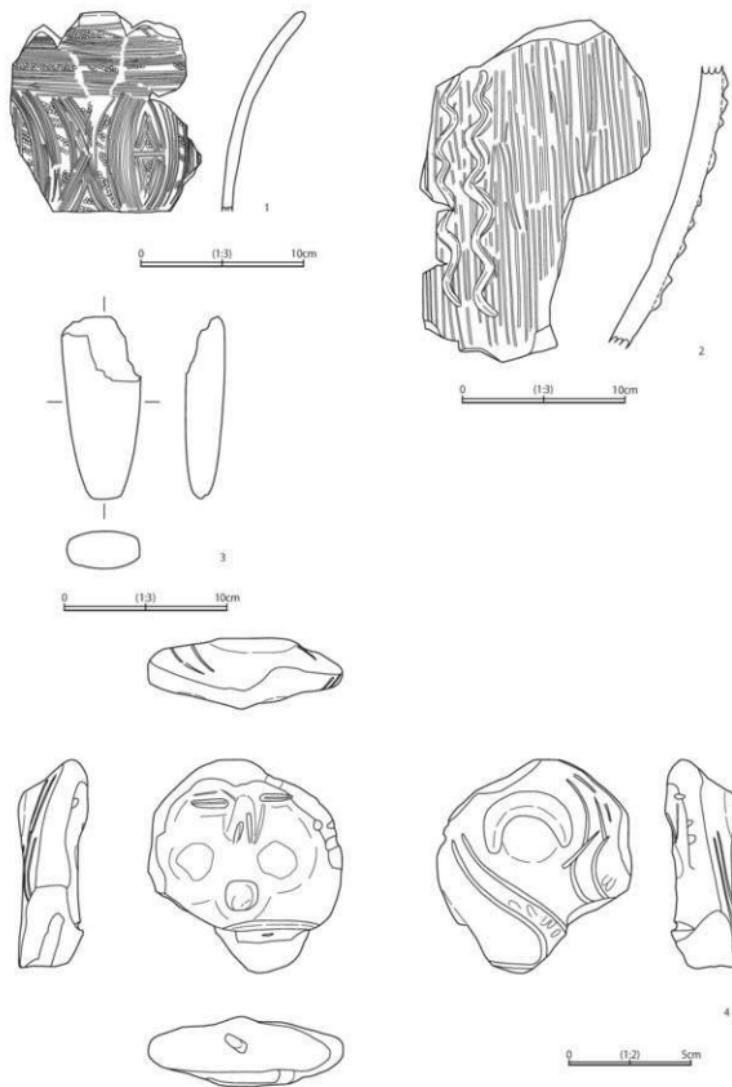


遺物観察表(土器)													
番号	地点	種別	縦横	口径	脚高	底径	外面調査	内面調査	色調	胎土	残存率(%)	注記	備考
1	DTレンチ	縦文	深鉢	-	(12.3)	-	断面状工具に よる集合次 緑、縦文	ナデ	赤褐色10YR4/4 青白、白・黒・ 赤色粒子	破片	Aトレ	猪俣eか	
2	ETレンチ	縦文	深鉢	-	(17.4)	-	竹葉文、粘土 縞	ナデ	にじい赤褐 SYR5/4 赤色粒子	破片	ETレ	曾利式	

遺物観察表(石器・土製品)

番号	地点	種別	縦横	長さ	幅	厚さ	材質(胎土)	色調	残存率(%)	注記	備考
3	ATレンチ	石器	磨削石片	(11.25)	4.5	2.3	蛇紋岩?	灰オーリーブ 5Y4/2		ATレ	全面研磨、先端部に打痕
4	CTレンチ	土製品	土偶	8.0	(8.5)	2.9	青白、白・黒・ 赤色粒子	灰褐7.5YR4/2		CTレ	

第4図 E・Fトレンチ平断面図



第5図 出土遺物



A トレンチ土層断面（南から）



B トレンチ土層断面（南から）



C トレンチ土層断面（南から）



D トレンチ土層断面（南から）



E トレンチ土層断面（南から）



E トレンチ内サブトレンチ土層断面（南から）



F トレンチ土層断面（南から）



## 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成 26 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 19 集
編著者名	入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒 404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5076
発行年月日	平成 28 年 3 月 25 日

ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
まつもじいせき 松木遺跡	こうしゅうしらんざいせき 甲州市勝沼町藤井 字三口神 782-1	19213	勝 83	35° 39' 1"	138° 42' 53"	平成 26 年 4 月 16 日～ 4 月 17 日	約 28.7m <sup>2</sup>	工場建設
ほとくわのじゆせき 橋爪氏屋敷	こうしゅうしらんざいせき 甲州市塩山上於曾 1435-1, 10, 11, 1437-1, 2, 3, 4, -5	19213	塩 214	35° 42' 27"	138° 44' 1"	平成 26 年 4 月 24 日～ 4 月 25 日	約 148.6m <sup>2</sup>	宅地造成
はちかたにいせき 八桑田西遺跡	こうしゅうしらんざいせき 甲州市塩山下於曾 字八桑田 3741-3, 4	19213	勝 111	35° 42' 53"	138° 43' 51"	平成 26 年 10 月 24 日～ 11 月 17 日	約 98.6m <sup>2</sup>	個人住宅
けかちじゆせき ヶ力子遺跡	こうしゅうしらんざいせき 甲州市塩山下於曾 825, 835, 836, 837	19213	塩 28	35° 41' 42"	138° 43' 40"	平成 26 年 12 月 10 日～ 12 月 15 日	約 180m <sup>2</sup>	市道整備
かめくぼいせき 龜久保遺跡	こうしゅうしらんざいせき 甲州市勝沼町勝沼 字龜久保 977-1, 979-1	19213	勝 36	35° 40' 5"	138° 43' 33"	平成 27 年 1 月 13 日～ 1 月 14 日	約 22m <sup>2</sup>	宅地造成
まえだいせき 前田遺跡	こうしゅうしらんざいせき 甲州市塩山下奥 1571-4, 1579-2, 1577-3, 1588-3, 1589-4, 1606-12	19213	塩 1	35° 40' 47"	138° 44' 12"	平成 27 年 2 月 4 日～ 2 月 6 日	約 65.5m <sup>2</sup>	農道整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松本遺跡	散布地	縄文・平安	なし	縄文土器・土師器	
橋爪氏屋敷	集落	平安	竪穴住居 12	縄文土器・土師器・須恵器 ・陶器・金属器	本調査を予定
八桑田西遺跡	集落	縄文・平安	竪穴住居 3、土坑 1	縄文土器・土師器・石器 ・金属器	本調査を実施
ケカチ遺跡	集落	古墳・平安	竪穴住居、溝、土坑 など	土師器	本調査を予定
亀久保遺跡	包蔵地外	不明	なし	土器小片	
前田遺跡	散布地	縄文	なし	縄文土器	

山梨県甲州市  
 平成 26 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書  
 2016  
 発行 甲州市教育委員会  
 住所 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1  
 電話 0553-32-5076  
 発行日 平成 28 年 3 月 25 日  
 印刷 株式会社 峡南堂印刷所